

# とよなか 環境



## ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21  
編集責任者：奥野 享  
事務局：豊中市環境情報サロン内  
〒561-0804 豊中市曽根南町1-4-3  
Tel: 06-6863-8792 Fax: 06-6863-8734

### この号のハイライト

P. 1 総会/P. 2 花と緑/P. 3 自然観察会、魚類調べ/P. 4 産業部会見学会/P. 5 生活部会/P. 6 こどもワークショップ、環境と私/P. 7 とよなか市民環境会議/P. 8 今後のスケジュール

2007年(平成19年)秋号 NO. 20 (通巻第38号)

## とよなか市民環境会議とアジェンダ21の総会が終わる

6月20日13時30分から、とよなか市民環境会議とNPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21は、豊中市立市民会館で今年度の総会を開きました。二つの総会に先立っての記念講演では朝日新聞社カメラマン小林裕幸さんによる「地球温暖化を考える、世界の環境危機はここまできている」の講演を聴きました。とくに、15時30分から開いたアジェンダ21の総会では議事に先立ち、新開悦子理事長から開会あいさつがありましたが、その中で触れられたリオの地球サミットでのセヴァン・スズキさんの伝説のスピーチの話と、南アメリカ先住民の説話「ハチドリの一とすく」の話は、今の私たちの運動の現状と課題を反映したものとして印象的でした。なお全体の参加者152人。アジェンダ総会は出席者55人と委任状80人で成立。

### セヴァン・スズキさんの話

以下の話は15年前のリオの地球サミットでのセヴァン・スズキさんの伝説のスピーチです。わずか12歳の少女スズキさんは、並み居る首脳を前にして次のように語りました。

「私の話は未来に生きる子どもたちのためです。そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです」と切り出し「私の世代には夢があります。でも私の子どもたちの世代はそんな夢を持つことができないのでは…」と、重く鋭い問いかけが続きました。彼女のメッセージに大人の私たちはどう答えてきたでしょうか。異常気象が絶えず起きている状況を見ぬふりをし、のんきに構えているときではないのです。

### 「ハチドリの一とすく」の話

森が火事になり、森の生きものたちはわれ先にと逃げていきます。でもクリキンディという名のハチドリだけ行ったり来たり、くちばしで水のしずくを一滴ず



つ運んでは火の上にと落ちて行きます。動物たちがそれを見て「そんなことしていったいなんになるんだ」と言って笑うが、ハチドリは「私は、私にできることをしているだけ」と答えました。

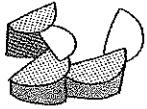
### 今年の総会を特徴づけたこと

今年は「不都合な真実」の映画が公開され、また2月から4月にかけて気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第4次報告がだされました。地球温暖化が切迫した問題であるのが改めて痛感されました。(奥野)

### グリーンランドフェスティバルからとよっぴー祭りへ準備進む

10月13日から20日にかけて、「3Rを考える週間」(仮称)が連続して開催されます。

- 13日(土)** グリーンランドフェスティバル 於：グリーンランド駐車場 内容：ガレージセール/食べ物飲み物の売店/各団体の出展、など。
- 18日(木)** 環境フォーラム 於：グリーンランド会議室 内容：持続可能な循環型社会とは？/ごみ減量の方法は？
- 20日(土)** とよっぴー祭り 於：緑と食品のリサイクルプラザ 内容：堆肥の頒布/各団体の出展/抽選会/堆肥化施設の見学、など。 ※この間ずっとリユースコーナー開設 於：余熱利用施設



## 自然部会

# 初夏の自然観察会 大阪大学待兼山キャンパスで

5月12日(土) 晴 最高気温24℃、参加者33人。  
初夏の自然観察会は、モノレールの柴原駅からスタートしました。

集合場所から大阪大学の構内に入るまでの歩道の脇にもいろいろな樹木や花の咲いている植物がありましたが、すぐそばの中央環状線を走る車の騒音が激しく説明が聞き取りにくかったようです。

すぐそばの『弘法の清水』と呼ばれる井戸遺跡も見学しました。大学の自転車置き場の付近には青紫色の花をつけたクサフジの花がたくさん見られました。大学の構内に入りましたが、ここでも花壇の緑や樹木の下に各種の野草が花を咲かせていました。

カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、ネズミムシ、イヌムギなど人里の動物のなまえを冠したなまえをもつ植物があり、なまえの由来が説明できました。また、アカツメクサの赤紫色、ニワゼキショウの淡青色、コメツブツメクサの黄色の

花など小さいながら美しい花もたくさん見られました。緑色で花とは思われないようでも、全体をよく見るととても品よく風流な穂を出しているヒメコバンソウもありました。どこにでもあるものですが、ふだん見落としていることが多いものです。

大学構内は広いので2時間はたっぷり歩きましたが、

行く先々で、風景が変わりいろいろな植物が見られました。動物はチョウやバツタが見られましたが、樹木が多いわりには鳥にはあまり出会いませんでした。大学なので大勢の人が活動しているところですから、姿を見せないのかもしれない。

最後はイ号館の博物館に入れてもらい、マチカネウ

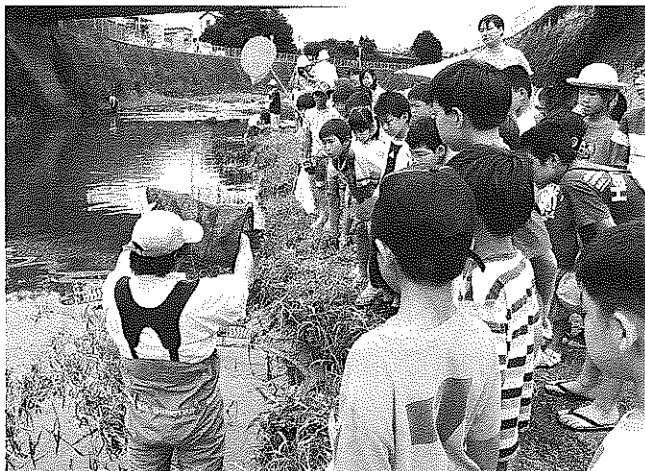
二やその発掘のときの様子の展示などを見て、大昔の豊中の地に思いを馳せながらこの日の観察会を終えました。

(岡恒夫)



## 生き物調査2007・千里川魚類調べ

今年度の生き物調査のテーマは千里川の魚類調べです。調査は、これまで上流部(上水田橋上流)と中流部(箕輪橋上流)で実施し、9月に下流部(猪名川合



流部上流)で行ないます。

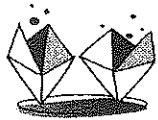
上流部の調査は6月16日に実施しました(一般参加者26人)。はじめに魚の捕り方の実演と川の構造の説明を受けた後に採集をした結果、10種の魚類が

確認されました。オイカワ、コイ、ドジョウ等が多く、特定外来生物のオオクチバスとブルーギルもいました。魚類以外で多くみられたのはハグロトンボのヤゴとミナミヌマエビです。採集の後、子どもたちには調査の様子を絵に描いてもらいました。

中流部の調査は7月21日に実施しました(一般参加者74人)。ここでは8種の魚類が確認されました。上流と同様にオイカワ、ドジョウが多く、なんと熱帯魚のグッピーまで見つかりました。魚類以外で多かったのは上流と同様にハグロトンボのヤゴとミナミヌマエビです。

今後は下流部の調査を実施した後、調査地点間や過去の調査記録との比較検討を行なってまとめる予定です。

＊「特定外来生物」……特に日本の生態系等に悪影響を及ぼす恐れがある外来種で、外来生物法で特に指定された種。上記2種のほかカダヤシやウシガエル等も含まれる。それらを飼育したり、他の場所に放すことは禁止されているため、捕まえた場合はその場で放すか処分して下さい。(柿本修一)



## 生活情報ひろば・とよっぴー野菜の頒布

### 花と緑のネットワークとよなか

生活情報センターくらしかんで、これまでマジカル広場として使用されていたスペースが「生活情報ひろば」としてリニューアルオープンしました。

7月6日（金）に講演会などのオープニングイベントが、7月7日（土）は野菜その他の食品を頒布するイベントが開催されました。この生活情報ひろばは、『くらしかん登録グループ連絡会』が運営することとなり、市民の手による広場づくりが展開されるわけです。アジェンダ21は登録グループとして協力し、野菜や竹炭の頒布、自然工作教室などさまざまな形で参加していくことになります。

花と緑のネットワークとよなかでは、以前からイベント等で“とよっぴー”で育てた野菜を市民の皆さんに提供する活動を続けています。“とよっぴー”を多く土に入れると有機質の肥えた土になるため、ほとんど化学肥料を使わずに農作物を作ることができます。そうしてできた“とよっぴー野菜”はおいしいと



評判で、市民のみなさんに安心・安全でおいしい野菜を定期的に提供できる場ができたことはとてもありがたいことです。今後もくらしかん生活情報ひろばで、地元でできた安心・安全な野菜の提供を行う予定です。

まずは毎月第2水曜日に定例的に開催予定の地産地消のイベントで“とよっぴー野菜”を頒布します。ここで当会が頒布を行う野菜は、長年農薬と化学肥料を一切使わずに有機農法を続けてこられている小曾根の光久隆晴さんの農園他、豊中市内の農家で“とよっぴー”を使って育てていただいている野菜です。

農地の少なくなった豊中でがんばって農業をされている農家を応援し、豊中でできた野菜を豊中の市民に提供する取組みを少しずつ広げていきたいと思えます。そして都市部である豊中에서도地産地消のシステム作りができればと夢は広がります。  
(茨木かづ子)

## 電動生ごみ処理機も堆肥化活動助成の対象にします

### 発生抑制による二酸化炭素削減効果に期待

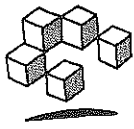
花と緑のネットワークとよなかでは、従来から家庭でコンポストやバケツを使用して生ごみを堆肥化されている市民を対象に「堆肥化助成制度（最高3千円）」を「とよっぴー基金」を活用して実施しています。この制度は堆肥化講習をセットにしながらか「誰でもできる家庭での生ごみ堆肥化」の取り組みとして定着してきましたが、市民からは電動装置についても要望が多く、この間、内部で電動装置をどうするか検討してきた結果、電動装置（助成制度としては「生ごみ処理機」を対象）も助成制度の対象に加えることを決定しました。

電動装置は動力エネルギーを必要とすることから抵抗感がありました。しかし、地球温暖化問題がより深刻な現在、生ごみを収集・焼却処理する方法と、家

庭において電動装置を活用して生ごみを処理（減量・堆肥化）する方法を比較した場合、後者のほうが二酸化炭素の排出量が少ないことや、生ごみの排出を抑制するという、ごみ問題の3Rの最も重要な観点と食品リサイクル法（発生抑制・減量・再生利用）の趣旨に立脚して助成制度の拡充に踏み切るものです。

助成額は最高3千円であり、全国的に普及している電動堆肥装置に対する自治体の助成額に比べ僅かな金額です。これは市民組織（NPO）の助成であること、堆肥化の仲間づくり（ネットワーク）を進めることが本意であり、低額に抑えたものです。

なお、制度の実施は概ね10月を目途に考えています。  
(中村義世)



生活部会

## 電気を上手に使おう オール電化住宅を見学

8月21日の午前、生活部会では関西電力三國営業所にあるオール電化ハウスを訪ね、最近の色々な電気機器などを見学しました。参加者はスタッフを合わせて18人でした。

まず、スクリーンで施設の概要について説明を聞きます。説明の力点はどうしても安心・安全と快適、経



済性がメインです。オール電化で平均的4人家族の二酸化炭素排出量が40%節減できるそうです。

注目したのはエコキュートと呼ばれている「自然冷媒」が売り物のヒートポンプ式の電気給湯機です。ベランダに設置されたコンプレッサーで冷媒（二酸化炭素を使用している）に圧を加えて発生する熱で水を温めて使用するようになっていました。ポンプからは、熱を発生させる代わりに冷風が出ていましたが、ヒートポンプが使われている最近のエアコンと同じ原理だなあと実感させられます。でも、それがどれほどの省エネになるかは、モデルハウスでの機器を見るだけでは、今ひとつよくわかりませんでした。

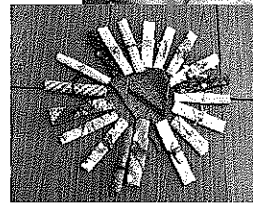
参加者が楽しんだのはやはりIHクッキングのモデルキッチンです。炎が出るガス器具と違いそばにいても余り暑さを感じることなく快適に料理できることを実感しました。最後につくった料理をいただいて、見学を終わりました。（奥野）

## モニター倶楽部でマイ箸袋作りに挑戦する

7月9日10時30分から、アジェンダ事務局の大村靖子さんに講師をお願いしてマイ箸袋を作りました。

“お気に入りの箸を外食の際にも持っていこう”と言うことで、家に眠っているハンカチや布などを活かしてリサイクルにもなるので一石二鳥。なにしろ針をもつのも久しぶりの女性スタッフ故に、一度リハーサルをしてみました。「糸が通らな〜い」とか「きせをかけるって?」「巻きかがりってどうするの?」など大騒ぎ。大村さんの説明に、いちいち感心しきり。

でも、当日は手芸好きな人たちが、モニターさん中心に16人もあつまってくださり、リハーサルよりはうんとスムーズに、和気あいあいと楽しくマイ箸袋ができあがりました。机の中央に並べて写真撮影すると、「わーっ、すてき!」「いいのができたわ」など思わず歓声が上がりました。有志の方から布や小物の提供



もあり、大いに助かりました。結局不慣れなのはスタッフだけだったみたい。

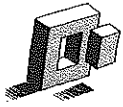
最後に、お茶とお菓子で雑談。早くも「次は布ぞうりを作りたいわ」とか「さき織りでバッグをつくりたいな」など、次回への期待がどんどん膨らんでいきました。

スタッフからも「モニター同士の交流をもっともっと深めたいから、1人が1人をさそって、モニターを増やすのにご協力ください」と呼びかけました。

あっという間の1時間半でした。（稲垣 和美）

### 環境クイズ

ごみを減らすためにいちばん身近な行動はリサイクルですが、豊中市が収集しているごみの中でリサイクルできるものの割合はどれくらいでしょう。①15%、②25%、③35%。



産業部会

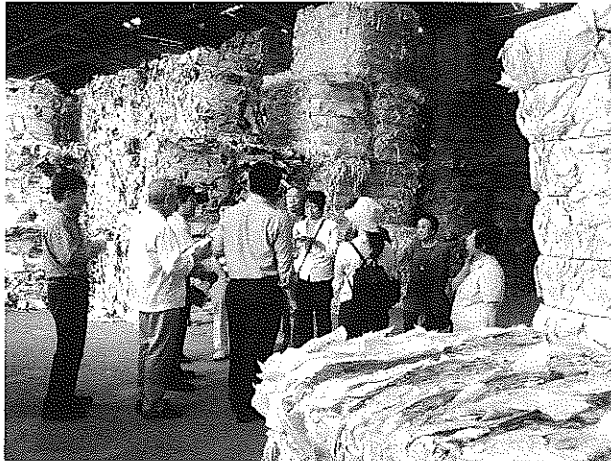
## 製紙工場と古紙問屋を見学する

産業部会の見学会は、7月11日の朝から吹田市の紀州製紙大阪工場へ、午後は枚方市の古紙問屋の近畿紙料株式会社へ行きました。当日の参加者28人、マイクロバス2台での出発です。

### 色上質紙ができる工程

最初に訪ねた紀州製紙大阪工場は神崎川沿いで敷地4.4万平方メートル、比較的小じんまりとした工場で、従業員は100人余り。造っているのは主に色上質紙、パンフの表紙などに使われているし、このニュースレターも紀州製紙の製品で、意外に身近なものでした。

紙の製造工程は、まず溶解槽でパルプを粥状に溶かし、叩解（こうかい）機を通します。これは溶かしたパルプを臼状の狭い隙間を通し、繊維の表面を毛羽立たせて絡み易くします。おそらくこの叩解の工程が素人目には最も難しそう、しかも興味あるところです。その工程の具合によっては紙の出来具合にも大きく影響するらしく、古紙の混ぜ具合も叩解の程度に関わるそうです。



この工程で染料を加え、また濃い色の紙などは原料に古紙も混ぜるそうです（なるほど、明るい色の場合は古紙によって色合いをダメにしてしまうのかな）。次の工程は抄紙（しょうし）機、つまり紙すきです。細かな金網がコンベアのように走る、そこへ粥状の原料を載せ水切りをします。次に紙になりかかったものが金網から毛布のようなコンベアに移されます。高速で走る金網からどうやって毛布の方へうまく移されるのか、目を凝らして見てもよく分からない不思議な工程ですが、この間にプレス機のローラーの間を通してさらに水切りし、毛布からはがされて完全に紙になった流れが、さらにローラーでプレスし、また蒸気で乾燥させて、巻き取られます。もう製品の出来上がりなのです。

金網や毛布のコンベアが高速で走っているの、イヤホーンの説明を聞くときはもう一つの耳を覆っていないければ声が聞こえない位のすごい騒音。そんな中で、これだけの工程がよどみなく、ほとんど人影のない中で流れています。

### 回収された古紙の状況を見る

近畿紙料の現場は文字通り倉庫の中で、回収されてきた古紙が山のようになっていました。ショベルカーでかき寄せられた古紙の中から、職員が2人で雑誌や菓子箱などを横にはねのけています。雑誌のように背に当たる部分に糊がついているもの、紙箱など質が異なるのは、再生紙としては別扱いです。

跳ね除けて選別されたものは、ベルトコンベアで送られて枠に詰められ、1メートル余りの四角いかたまりに括られて運搬しやすいようにされます。ほぼ1トンほどの重さのようです。

そのようにして括られたかたまりが倉庫の別の隅に山積みされていました。しかし、出庫を待つそれらのいわば製品とでもいべきものをよく見ると、家庭から出た古紙よりも製本工場

や印刷工場の裁ち屑、印刷の余りもの、あるいは会社で使わなくなった用紙など大量に発生する古紙が断然多いのに気づきます。言わば古紙を商品化する企業にとっては、品質にばらつきの少ない、企業から出される古紙がもっとも捌きやすい製品になるのだと見て取りました。

でも、大量に出された同様の紙製品でも、紙コップの容器がまとめて積み上げられていたのが目につきました。これは同じように大量にまとまっていますが、コップの縁や底の部分は異質なものが含まれていて、リサイクルできないのだそうです。

### どこまでリサイクルできるの？

古紙の回収率はすでに70%を超えているそうです。今は中国に輸出されたりして古紙の相場が上がっていますが、国内での古紙の需要はほとんど飽和状態ではないかと悩ましく思いつつ見学を終えました。

（奥野）



## 野畑小でESDこどもワークショップ

ESDとよなか

夏休みに入ったばかりの7月24日、野畑小学校で、地元の小学生を中心に約20人が集まりESDとよなかのワークショップを開きました。コーディネーターは、前回に引き続き川島憲志さんと大滝あやさんをお願いしました。

今回は「タイムトラベラー編」として、野畑のまちの昔の写真を手がかりに、その写真に写っている今の風景を探し、同じように写真を撮ってくるというものです。まずは全員で、地域の方から借りた野畑の昔の



写真をスライドで見たあと、4つのグループに分かれ、それぞれ別の古い写真を1枚ずつ持って、それがどこか探しに学校の外へ出かけました。まちでは、お店の方などにヒントを教えてくださいようあらかじめお願いしておき、子どもたちと地域の方とのコミュニケーションをはかる工夫もありました。それでもわからない場合は、通りすがりの人に聞くこととなります。古い写

真と比べると現在は高い建物が建っており、なかなか同じ風景はみつからないようでしたが、変わらない山や川の形のほか、昔からある建物を探すことによって、時間の流れとまちの変化を実際に確認できました。

決められた時間内に学校に戻ってからは、昔の写真と今日の写真を比べ、その次に未来の風景を想像して絵を描き、未来へもタイムトラベルをしました。最後にそれをみんなで紹介しあい、終了しました。

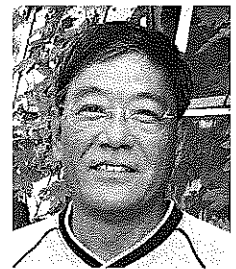
**ESDとは**、「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の略称で、2002年のヨハネスブルグサミットで日本が提案し、国連ESDの10年(2005年~2014年)として世界各地で取り組みが始まっています。持続可能な社会を作るためには、それを担う人への働きかけ、人づくり(教育)が重要であるという考え方で、環境問題だけでなく、地域社会における持続可能性を阻む様々な問題解決のために、未来を担う子どもやあらゆる立場の人たちが関わりを持ちながら学び合うこと、そのための環境づくりがESDです。

豊中でも、とよなか市民環境会議アジェンダ21やとよなか国際交流協会、豊中市、教育委員会などをはじめ、この考え方に賛同した様々な組織が中心となって、独自の取り組みを進めています。その中で、子どもたちがまちを歩き、自分たちの視点で地域をみつめるタウンウォッチングの手法を取り入れたワークショップを、豊中市内の小学校などでこれまで5回開催してきました。(井上)

## 環境とわたし

### ⑭ 池田 勉さん

#### 花と緑のネットワークとよなか



私は長年勤めた会社を定年退職しました。家にいるようになって幾分戸惑いがあったことも事実です。新聞などでは「団塊の世代の大量退職が始まった」と書かれていたりしますが、私もその中の一人に入ったというわけです。

家にいることにもようやく慣れて家の周りの土地で家庭菜園をすることにしました。豊中市広報を見て、アジェンダ21の活動の生ごみ堆肥作り相談会に参加しました。家庭でもできる生ごみ堆肥の話聞き、これは良いことだと思い花と緑のプロジェクト運動にも参加することにしました。勤めているときから環境問題には少し興味があり、ダイオキシンと環境ホルモンが話題になっていたことを思い出します。その頃から

ほぼ10年、化学物質の有害性にも、すぐに影響が出るものと世代を超えて表れるものなど様々で、いま影響が見えないからといって、無害ではないことを恐ろしく思っていました。

社会生活の変化にともない一層この傾向は強まり、知らず知らずのうちに問題が広がり、体に直接害がある毒物だけでなく、人類の生存をも脅かす地球温暖化まで、豊かな時代になるとともに環境問題の大変さが世界的に取り組まれるようになってきています。次世代の子どもものことも考えつつ運動を大切にしていきたいと思います。

# とよなかエコ市民賞2007

## 環境活動団体を募集!

応募期間：平成19年(2007年)8月1日(水)～9月30日(日)(消印有効)

### ? とよなかエコ市民賞って何?

とよなかエコ市民賞は、市内で環境負荷の低減や、自然との共生、快適環境の創造などの取り組みの中から、継続した活動実績があるか、特に顕著な功績が認められる団体を、「とよなか市民環境会議」(会長：浅利敬一郎豊中市長、148 団体)が表彰し、市民の環境活動の輪を広げようというものです。

### ? 表彰されるのは、どんな団体?

市内で下記のような環境活動を行っているグループや団体、事業者、学校、施設などおおむね5団体を表彰します。

- 循環型社会形成につながる取組み
- 省エネルギーの推進
- 温暖化防止につながる取組み
- 自然環境の保全にかかわる取組み
- その他環境にかかわる取組み

#### 【応募資格】

下記の(1)か(2)のどちらかの要件を満たす団体。

(1) 環境報告書「とよなかの環境I」に活動実績が掲載されている団体。

(2) 一定期間の活動実績(下表)があり、将来にわたり継続する見込みがある団体。「とよなか市民環境会議」構成団体の推薦が必要です。

#### ・活動実績年数

活動の頻度	継続年数
毎日の活動	1年以上
毎週の活動	2年以上
毎月の活動	3年以上
毎年の活動	5年以上

※なお、上表の年数を満たしていない場合であっても、その活動が特に顕著で多大な成果があると認められる場合は、この限りではありません。

### ? いつ、どうやって表彰されるの?

とよなか市民環境会議役員会で選考し、平成20年(2008年)2月16日(土)に予定されている「ストップ地球温暖化デー」の催しで表彰します。

### !! よし! 応募しよう!

応募要領、応募用紙は、豊中市役所環境政策室にあります。また、豊中市のホームページからもダウンロードできます。

豊中市ホームページ：  
<http://www.city.toyonaka.osaka.jp>

## 「環境フォーラム」開催のお知らせ

と き：9月15日(土) 13:30～16:00

と ころ：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷホール

主催：豊中市 共催：とよなか市民環境会議・NPO 法人とよなか市民環境会議 アジェンダ 21

とよなかの環境について、市民のみなさんとともに考えます。ぜひ、ご参加ください。

入場無料!  
保育あり  
(要申込み)

# スケジュールのお知らせ

## 🦋 鳴く虫観察会

9月14日(金) 18時~20時  
服部緑地公園

## 🦋 ちょっといい豊中みつけにいかウオーク

10月14日(日) 9時30分~12時30分  
市役所~八坂神社~服部緑地民家集落博物館

## 🦋 竹炭焼き

10月17日(水) 9時~12時  
千里中央公園野外炊さん場

## 🦋 竹炭窯出し

10月18日(木) 9時30分~12時  
千里中央公園野外炊さん場

## 🦋 自然ふしぎ発見クラブ

「秋です。団栗、どんぐり、ドングリ!!」  
10月20日(土) 10時~12時  
千里中央公園管理事務所集合

## 🦋 とよっぴー祭り

10月20日(土) 11時~14時  
緑と食品のリサイクルプラザ

## 🦋 とよっぴーの有料頒布

第2土曜日&第4水曜日 10時~11時  
緑と食品のリサイクルプラザ

## 🦋 とよなか市民環境展2007

12月7日(金)、12月8日(土)  
豊中市立市民会館

## 編集室から

▼やはり夏の暑さは応える。いっしょに活動している仲間には冷房をつけずに扇風機など自然の風で夏を乗り切った話を聞かすが、私はだめだ。8月下旬になり早朝はやや涼しくなり、朝食の間だけでも自然の風による涼しさを楽しむことにしているが。(Z)

▼貸農園で野菜を作っている。たくさんとれると保存できる食品にする。今年は茄子のからし漬けを作ってみた。ピリっとして食欲のない時におすすです。家では、梅干、ラッキョウ、味噌などの昔ながらの保存食を作っている。暑い夏、疲れた身体を元気にしてくれるすぐれものです。(H)

▼通勤の途上で昨年まで稲が作られていた市内の田んぼに今は「管理物件 ○○商事」の看板が立てられ雑草に覆われている。作り手がいなくなって荒れた田んぼを眺めるのは寂しい。退職した元気な世代が農家に教わりながら作れたらいいのに。夢かな?(Y)

▼終戦は62年前の8月であった。当時はクーラーは全く無かった。さぞかし暑かったことであろう。今年の8月は未曾有の暑さであるとはいえ、クーラーの普及のお蔭で人々はその暑さから逃れうる。何と恵まれた事か。それは平和のお蔭、平和ほどありがたいもの

は無い。(S)

▼夏休み、子どもたちとキャンプに行ってテントで寝泊り。豊中から少し北に行っただけなのに、朝夕は涼しい風が通っていく。見慣れない虫におっかなびっくりの子どもたち。のびのびと楽しく、自然体験できる機会を。(M)

▼テレビで世界陸上を観ていたら、最後に「この放送は自然エネルギーを使用しています」というメッセージが流れました。グリーン電力証書を利用したのですが、エネルギーを自ら選ぶことができる、このような取り組みが広がっていることを実感しました。(J)

▼冷蔵庫を省エネタイプに買い換えました。背面のアルミパネルと冷気ですみずみまで冷やしてくれます。開ける回数はなるべく少なく短時間で! と思っているのは私だけ。扉を開けて中を眺める夫と子ども。「何か入れた覚えでもあるんか?!」(P)

環境クイズの答 ②の25%です。減量推進課の資料によると平成17年度の調査結果では「処理されるごみの中の資源化可能物の割合」は24.7%(重量比)でした。

## ご寄付のお礼

アジェンダ21の活動に対して温かいご寄付が寄せられました。(5月、6月)

高島邦子さま、寺本専助さま、ありがとうございました。

《広報チーム》

Z奥野、H岡、Y小村、S猪尾、M大井、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)